

## コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月13日

JAMA: ロングコロナに関する米国保健社会福祉省の最新の報告

BMJ: 軽症感染者におけるロングコロナの1年後の状況：イスラエル

### 【松崎雑感】

ロングコロナについて、JAMAの論文では、感染者の5～30%が体調不良を抱えているというまとめです。BMJは、軽症感染例については、イスラエルの1年間追跡した研究の結果、大多数の体調不良が改善するという論文を掲載しています。人類が初めて遭遇する感染症ですから、影響の全貌がわかるには10年単位の時間が必要でしょう。

## ロングコロナに関する米国保健社会福祉省の最新の報告

Suran M. [HHS Releases New Report on Long COVID Experiences](#). [JAMA](#). 2022;328(24):2386. doi:10.1001/jama.2022.20052

米国保健社会福祉庁（HHS）は、ロングコロナに関する報告書で、新型コロナウイルス感染者の5～30%がロングコロナを発症し、100万人の人々が就業不能となっていると報告している。

専門家は、ほぼすべての臓器で、50以上のロングコロナ症状が発症していると語る。

同省の科学医学副次官補マイケル・イアデマルコ氏は次のように語った。

「ロングコロナの病状は単一ではない。この報告書により、ロングコロナが多臓器にわたる疾患であることが解明され、どのように対処する必要があるのかが詳しく述べられている」と述べた。

この報告書は、関連文献のレビュー、4つのワークショップ報告、60名以上のロングコロナ患者の聞き取り調査などで構成されている。

聞き取り調査は、ロングコロナとなっているケアギバーやヘルスケアワーカーなど幅広い人々から選ばれている。

専門家の解析により、ロングコロナの病像の理解が容易となるように、データが再構成されている。

この報告書は、HHSおよび独立の研究機関Coformaが作成した。

ロングコロナの病状が千差万別であること、そして、ロングコロナによる体調不良と生活の質の低下をどのようにして解決するかが述べられている。

歴史的に社会的ケアの行き届いていない人々にロングコロナが大きな被害をもたらしていることも指摘されている。

「パンデミックが収束しても、ロングコロナによる体調不良は長期間続く。病状の緩和と社会的影響を減らすための対策を迅速かつ全面的に実行することが望まれる」と報告書は結んでいる。

# 軽症感染者におけるロングコロナの1年後の状況：イスラエル

Mizrahi B, Sudry T, Flaks-Manov N, et al. Long covid outcomes at one year after mild SARS-CoV-2 infection: nationwide cohort study. *BMJ*. 2023;380:e072529. Published 2023 Jan 11. doi:10.1136/bmj-2022-072529

## 目的

軽症感染から1年後のロングコロナの状況を調査。

## 方法

イスラエルの全国的ヘルスケア組織（マッカビ・ヘルスケアサービス）の電子カルテデータに基づいた後顧的全国コホート調査。2020年1月から2021年10月のPCR診断患者1,913,234名。ロングコロナ症状70項目の保有率を感染者と非感染者で比較。変異株種類別、ワクチン接種の有無別に解析。感染から180日まで（早期）と、360日まで（後期）に分けて、1万人あたりの症状保有率を算定。

	早期（感染後30～180日）		後期（181～360日）	
	ハザード比	リスク差 （/1万人あたり）	ハザード比	リスク差 （1万人あたり）
嗅覚味覚障害	4.59	19.6	2.96	11.0
認知機能低下	1.85	12.8	1.69	13.3
息切れ	1.79	85.7	1.30	35.4
倦怠感	1.78	108.5	1.30	50.2
動悸	1.49	22.1	1.16	8.3

## 結果

脱毛、胸痛、咳、筋肉痛、呼吸器疾患は早期で有意に増加していた。早期では、男女差が若干見られ、小児は大人よりも有症率が低かったが、後期にはほぼ有意差はなくなった。変異株による有症率の差は見られなかった。ワクチン接種後感染した人々は、ワクチン未接種の人々より息切れが有意に少なかった。

## 結論

軽症感染者のロングコロナ症状発生率はそれほど多くなく、1年後にはおおむね改善していた。

**Hazard ratio  
(95% CI)**

**Risk difference  
per 10 000 patients**

**Ages 0-4**

- Dyspnoea
- Conjunctivitis

**Ages 5-11**

- Streptococcal tonsillitis
- Conjunctivitis
- Sore throat

**Ages 12-18**

- Anosmia and dysgeusia
- Dyspnoea
- Streptococcal tonsillitis
- Weakness
- Abdominal pain
- Skin rash

**Ages 19-40**

- Anosmia and dysgeusia
- Dyspnoea
- Concentration and memory
- Weakness
- Chest pain
- Hair loss
- Palpitations
- Dizziness

**Ages 41-60**

- Respiratory disorders
- Anosmia and dysgeusia
- Hair loss
- Dyspnoea
- Weakness
- Cardiac arrhythmias
- Concentration and memory
- Palpitations
- Chronic liver disease
- Chest pain
- Cough
- Myalgia
- Arthralgia
- Dizziness

**Ages >60**

- Hair loss
- Dyspnoea
- Weakness
- Chest pain

■ Early (30-180 days) ■ Late (180-360 days)

